

＜所蔵映画ポスターのオープン展示＞
**東京国立近代美術館フィルムセンター所蔵
 映画ポスター名品選**

会場：行幸地下ギャラリー（東京駅丸の内口）
 2017年11月10日（金）～12月25日（月）

平素よりお世話になっております。

このたびフィルムセンターは、所蔵映画ポスターをオープン展示する企画「東京国立近代美術館フィルムセンター所蔵 映画ポスター名品選」を、11月10日より、東京駅丸の内口「行幸地下ギャラリー」にて開催いたします。

映画ポスターを街路に
——フィルムセンター初のオープン展示

東京国立近代美術館フィルムセンターは、1970年の設立以来、映画のフィルムを文化財として収集・保存し、積極的な上映活動を続けてきた日本で唯一の国立映画機関です。そのフィルムセンターのコレクションのもう一つの柱が、ポスター・スチル写真・シナリオ・プレス資料・機材・書籍といった映画資料です。

これまでフィルムセンターは所蔵資料を用いて数多くの展覧会を開催してきましたが、この度、私たちのコレクションがより多くの方々の目に触れる機会として、いつもの展示室から飛び出し、丸の内への行幸地下ギャラリーで展覧会を開催することとなりました。展示品は、所蔵する映画ポスターの中から歴史的に価値の高い3つのコレクションそれぞれから10点ずつを選びすぐたものです。全30点の名品たちをご堪能ください。

このポスター展は、街路に貼られてきたポスターというメディアを、もう一度街中に呼び戻す試みとも言えるでしょう。また、20世紀以来世界の民衆を魅了してきた、映画という文化の豊かさを再発見する機会ともなるでしょう。



* 展示形態は、デジタル画像からの出力による複製展示です。デジタル化作業は平成29年度「文化芸術振興費補助金（美術館・歴史博物館重点分野推進支援事業）」の「映画におけるデジタル保存・活用に関する調査研究（BDCプロジェクト）」の事業として行われました。

【展示ポスター】（計30点）

○戦後期フランス映画のポスター（新外映コレクション） 10点

新外映配給株式会社（1947-1963）…戦後にフランス映画の輸入会社として設立され、ジャック・タチ、プレッソン、ゴダールらの名監督を日本に初めて紹介した。

○戦前期日本の映画ポスター（みそのコレクションほか） 10点

御園京平（1919-2000）…日本を代表する映画資料コレクター。生涯をかけて収集した資料の多くを寄贈、フィルムセンターの映画資料コレクションの重要な柱をなす。

○無声期ソビエト映画のポスター（袋一平コレクション） 10点

袋一平（1897-1971）…ロシア映画研究家、翻訳家。1930年にソビエト・ロシアに渡り、ロシア・アヴァンギャルド作品を含む貴重な映画ポスターを日本にもたらす。

【開催概要】

企画名：東京国立近代美術館フィルムセンター所蔵 映画ポスター名品選

会場：行幸地下ギャラリー（東京駅丸の内口）<http://www.gyokochika.com/>

※地下の歩行者専用道路（約110m）に沿ったガラスショーケース内

会期：2017年11月10日（金）～12月25日（月）

主催：東京国立近代美術館フィルムセンター

協力：三菱地所株式会社、三菱地所プロパティマネジメント株式会社

掲載用のお問い合わせ先：03-5777-8600（ハローダイヤル）

本企画ウェブサイト：<http://www.momat.go.jp/fc/exhibition/open-air2017/>